

金鷹山

平成28年(2016)11月1日発行
通巻第4号

発行所 若宮八幡社社務所
〒873-0004
大分県杵築市大字宮司336番地
発行者 宮司 紀田兼宣
電話 080(5503)3488

若宮八幡社 金鷹山 検索
神社公式ホームページ
開設しております。
御覧ください。

祝祭日には国旗を掲揚致しましょう



若宮八幡社 航空遠望

巻頭言「脚下照顧」平成二十八年を振り返り 来たる平成二十九年に想いを馳せる

歌手ファンキー加藤君が主演を務めた映画「サブイボマスク」が今夏放映され、鑑賞された方も多いことと思います。▲杵築市と中津市が撮影場所として昨年の夏にスタッフ一同が、若宮八幡社に参拝されて神様もお喜びのことと存じ上げる次第であります。▲道半町（みちなかばまち）の商店街を盛り上げようと奮闘努力する姿に、元気を戴いた気が致しました。実際の杵築市も少しずつ人口が減少しているようで、特に若い世代を如何に移住して戴くかを考えていかないと痛感する日々である。▲若い世代と言えば、今年の夏はリオデジヤネイロのオリンピックでの、日本選手の活躍が記憶に新しいところである。史上最高のメダル数を獲得したことも天晴れであるが、試合後のインタビューで、殆んど選手が、コーチ・家族・職場の方々に対する感謝の気持ちを素直に語っていた姿にも感動を覚えたのは小生だけではないだろう。▲四年に一度の大舞台に向けて、選手たちはあらゆることを犠牲にして、それこそ血の滲むような努力を重ねて目標に向かって精進してきたことに対して、我々日本国民が軽々しくその結果の是非を述べるのは大変失礼ではないかと思えます。▲平成二十八年は、神武天皇が崩御されてより二千六百年という式年にもあたり、去る四月三日には、若宮八幡社をはじめとする全国の神社で、式年祭が斎行されたことはあまり知られていないことなのかも知れません。▲二二年を振り返り皆様方お一人お一人に色々な思いが蘇ることでしょうが、やはり感謝の気持ちは常に忘れることなく、己の心に保ち続けて参りたいものですね。▲勝つて驕らず、負けて腐らず 人生はその繰り返しであることを認識していかなくてはなりません。▲「脚下照顧・きゃつかしように」この言葉を座右の銘として宮司職を毎日務めておりますが、その意味は：自分の

足元をよく見なさい 他に向かつて理屈を言う前に、まず自分の本性を良く見つめ、身近なことに気を付けるべし…との戒めであります。▲皆さんがそれぞれ四年後の東京オリンピックに想いを致すとき、その時自分は果たしてどれだけ成長出来ているだろうか、人様から指をさされているような人間に成り果てていないだろうか。これから自問する日々が続きます。四年後の平成三十二年（西暦2020年）は、日本書紀が編纂されてより、丁度1300年という佳年を迎えることとなるのは、単なる偶然と言いつてもいいのではないのでしょうか。▲この日本の国柄や建国の成り立ちを今一度認識して、世界各国から見えなくなる方々を心より「おもてなし」しようではありませんか。更に日本人の心の文化には、「おもいやり」という素晴らしい言葉もあることを、この機会に発信するべきであると痛感しておる次第であります。▲まずは己の心を戒めながら、平成二十八年の日に感謝を申し上げ、ゆく年来る年来たる平成二十九年も氏子崇敬者の皆様方にとりまして、より良き嘉年でありませう祈念申し上げる処であります。▲そして五年が経過した東日本大震災また今年四月の熊本・大分県大震災をはじめとして、国の内外を問わず天災や人災を被り、余儀なき生活を送られております人々の一日も早い安寧なる生活、そして崩壊した街並みの一日も早い災害復興を心より念ずるばかりであります。▲社報「金鷹山」もお蔭様にて第4号を刊行するまでに至りました。若宮八幡社総代をはじめ、関係各位のご薫陶の賜物と深く感謝を申し上げ、紙面をお借りしてお礼申し上げますと共に、心を込めて茲に社報「金鷹山」第4号をお届け申し上げます。平成二十八年秋

ご寄稿

杵築市長 祝辞



若宮八幡社御鎮座一〇三〇年祭に当たり、一言、こあいさつ申し上げます。

若宮八幡社は、通称「宮司」の若宮さん」と呼び親しまれており、その歴史は古く、花山天皇の時代の寛和元年(九八五)十二月に紀兼貞朝臣が勅宣を奉り、伝灯法師とともに京都石清水若宮四所の御尊像を守護し奉り、豊後国速見郡八坂郷に下向し下司の柏島(現在の浜田社)に鎮座したことに始まりま

おり、長祿二年(四五八)から江戸時代末期に至る棟札二十五枚からも伺い知ることが出来ます。

県指定の文化財として、「境内林」、「楽」、「御田植祭」の三つが指定されています。「楽」と「御田植祭」につきましては、過疎・少子化の影響を受け存続が危ぶまれましたが、保存会のご尽力により、毎年、古式にのっとり、子ども達に素晴らしい祭り絵巻を繰り広げていただき、市内外から多くの人々が見学に来られます。

また、市の指定文化財としては、「大額」、「棟札」、「石造物群」が指定されており、いずれも地域の宝として氏子の皆様により大切に保存・継承されています。

今は無くなりましたが、牛馬市は承安三年(二七三)の放生会に七

日間開催されたのはじまりといわれ、奥州白河(福島県)、山陰の大山(鳥取県)とともに日本三大牛馬市として有名でした。昭和三十年代には数百頭の牛馬が出され、威勢のよい掛け声でセリが開かれ、周りには露店が連なり、芝居小屋もあり、人で溢れていました。小学生の頃、先生の引率でサーカス見物に行つた楽しい思い出もあります。

このような歴史のある若宮八幡社におきまして、今回の御鎮座一〇三〇年祭事業では、第一期事業として、〇〇〇年祭以来となる本殿随神門の修繕工事、随神像の修復工事等を実施し、また、九八〇年祭以来となる元宮(浜田社)までの御神幸も執り行われたと伺っております。

一〇三〇年祭にあたり、ご尽力されました神職をはじめ責任役員総代の方々に心から敬意を表しますとともに、若宮八幡社の今後益々の発展を祈念しまして、こあいさついたします。

杵築市長 永松 悟

御鎮座壹千参拾年記念事業完了を見る 特別会計収支決算報告を評議員会にて行う

若宮八幡社の御鎮座壹千参拾年を寿ぐ一連の記念事業も、氏子崇敬者の物心共々のご支援・ご協力を賜り、茲に完遂を見ましたこと、紙面をお借りして厚く感謝申し上げます。

記念事業につき、左記に経過報告を行います。

今を遡ること平成二十四年十二月二十六日に、御鎮座 壹千参拾年祭記念事業につき初会合を行ったことから着手されました。

翌平成二十五年五月十四日に若宮八幡社総代会を開催することにより、具体的な審議を開始、更に五月二十一日の評議員会に報告を行い、承認を受けたことによ

り正式に記念事業が開始となりました。

平成二十六年に入り、四月に二回に分けて見積り現場説明会を行い、その結果を五月二十一日の評議員会に報告し、施工業者を選定致しました。九月十五日に全国の神社を事務統括する組織である神社本庁に対し、境内模様替え申請進達。十二月二十四日の新嘗祭に於いて評議員に途中報告を行いました。

十二月十九日に神社本庁より、境内模様替えの承認を受けました。平成二十七年には、四月三日に随神像の修繕が完了し神門に設営されました。十二月二十日には、元

宮であられます浜田社まで神輿を五十年ぶりに巡幸申し上げ、翌十一月二十一日に御鎮座壹千参拾年奉祝大祭を斎行致しました。

平成二十八年になりました、特別会計の現況を鑑みて、御旅所頓宮の修繕及び境内便所の新築を行うことを決し、全ての事業が完了を見ましたことを、五月十四日に開催された評議員会に於いて、最終の特別会計の収支決算報告が為され、足掛け五年度に亘る記念事業が茲に終了致しました。

これからも、氏子崇敬者の皆様方に愛される氏神さまとして鎮座されますよう、篤いご崇敬のほどお願い申し上げます。

若宮八幡社 御鎮座壹千参拾年祭奉祝記念事業特別会計 決算最終報告

○収入の部	予算額	決算額	増減	備考欄
1, 繰入金A	4,000,000	4,000,000	0	斗初穂特別会計から繰り入れ
2, 繰入金B	2,000,000	2,007,634	7,634	若宮八幡社定期預金から繰り入れ
3, 紀田家基金	3,500,000	4,295,000	795,000	紀田宮司家及び親族にて基金を募る
4, 補助金			0	杵築市文化財としての助成金
5, 助成金	50,000	0	▲ 50,000	全国八幡連合会[宇佐神宮・石清水八幡宮]
6, 篤志奉賛金	5,000,000	6,320,100	1,320,100	若宮八幡社の社頭他で篤志家からの奉賛金
7, 玉串料	250,000	10,000	▲ 240,000	浜田社神幸祭にあたり神前に奉奠される
8, 雑収入	200,000	530	▲ 199,470	預金利子, 上記に属さない収入
9, 氏子神社費			0	
収入合計	15,000,000	16,633,264	1,633,264	

○支出の部	予算額	決算額	増減	備考欄
1, 祭典費	300,000	148,778	151,222	浜田社神幸祭・新嘗祭[神饌費・直会費・ほか]
2, 工事関係費	13,400,000	15,650,900	▲ 2,250,900	下記のABCの合計金額
A, 本殿, 随神門修繕工事	10,700,000	11,583,649	▲ 883,649	街藤原建築に支払う工事費
B, 随神像修復工事	1,700,000	1,609,200	90,800	如法(河本総代担当)に支払う工事費
C, その他予備工事費	1,000,000	2,458,051	▲ 1,458,051	上記のABに属さない工事に関する支出
3, 調度装飾費			0	本殿内の装飾品(紀田宮司奉納)
4, 記念品費	500,000	122,190	377,810	奉賛者に対する記念品
5, 事務雑費	200,000	569,668	▲ 369,668	趣意書・領収書・郵便代・振込手数料ほか
6, 予備費	600,000	0	600,000	款項目流用のために設ける
支出合計	15,000,000	16,491,536	▲ 1,491,536	

収入合計 16,633,264円 - 支出合計 16,491,536円 = 141,728円 は一般会計通帳に戻す
平成28年5月21日評議員会にて収支決算最終報告を行う

若宮八幡社責任役員 森昭氏 大分県神社庁設立七十周年記念表彰を受賞

去る九月二十九日・三十日にかけて開催された国民精神昂揚合同研修会・大分県神社庁設立七十周年記念表彰として、若宮八幡社責任役員森昭氏が栄えある賞を受けられました。

森責任役員は、多年に亘り総代職をお務めになられ、また平成二十一年からは責任役員も重責も奉仕、昨年完遂した御鎮座壹千参拾年記念事業も実行委員長として、氏子崇敬者の模範として、お勤めになられたご行為

が、表彰規定第2条「敬神の念篤く徳望衆に秀で、人格見識ともに勝れ」・第3項「神社責任役員・総代として奉仕神社の護持運営に協力、神社興隆に特に功績のあつた者」に該当し、速見支部総代の一員として受賞されました。

森責任役員様には、これからもお体には充分にご自愛戴き、斯界のために、また地域社会・ご自分ご家庭のためにご尽力を賜りますようお願い申し上げます。



拜殿向拝



社殿を仰ぐ



50年ぶりに浜田社巡幸



浜田社にて御旅所祭斎行



氏子崇敬者の奉賛芳名板

若宮八幡社の御祭神 仁徳天皇の御事績を紹介

若宮八幡社の主祭神であります「大鷦鷯命・おおささぎのみこと」と日本書紀での表記。古事記の場合は「大雀命」と表記される神様、一般的には第十六代 仁徳天皇（にんとくてんのう）のご事績を紹介致します。

仁徳天皇は、第十五代応神天皇の御子神様で、本来は父応神天皇の長兄である「菟道稚郎子・うじのわきいらつこ」様が天皇の御位に就かれる処でしたが、時の趨勢により弟神である大鷦鷯命が即位され、第十六代仁徳天皇となりました。

りをされておりました。その逸話を左記に紹介します。

朕 高殿に登りて遠く臨むに煙り国の内に起たず。今朕 億兆に臨みて三年になりぬ。(略)三年に至るまで悉に課役を除めて百姓の苦しみを息へよと。(略)三年の間経て百姓富寛なり。頌徳既に満ちて炊煙また繁し。

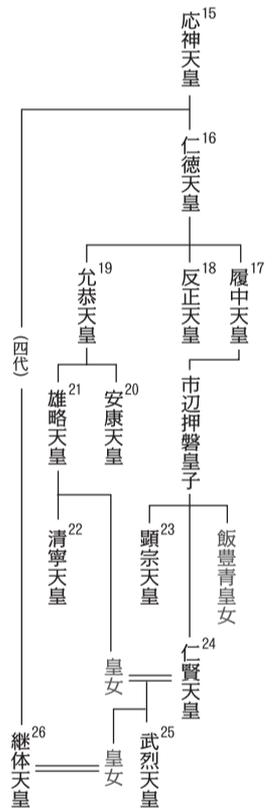
出典日本書紀卷第十一

意識：ある日皇居から見渡すと、民の家からご飯を炊く煙が上がつていないことに気づかれ、困窮している人々のために、三年間の課税をお止めになり、三年後に



仁徳天皇の仁政 かまどの煙り

仁徳天皇系図



煙が上がったことを確認するまでは、ご自分の生活も清貧に努められましたとのお話です。

仁徳天皇は、大阪難波の高津の宮に坐して天下を納められておりました。磐之媛命(いわのひめのみこと)を皇后として、お子様は六柱に恵まれました。その中のおひとり第十七代履中天皇に即位され、更には第十八代反正天皇、第十九代允恭天皇、第二十代安康天皇と万世一系の代々が続きました。

前記する「竈の煙り」に代表される仁政が夙に有名ですが、他にも河内平野における水害を防ぐ、日本最初の大規模土木事業を行ったり、紀角宿禰を百濟へ遣わし、初めて国郡の境を分け、郷土の産物を記録したりなど、数々のご事績を残されております。倭の五王のうち、「讚」若しくは



仁徳天皇陵



仁徳天皇陵 正面

「珍」に比定する説もありますが、現在はまだ確定されておりません。

仁徳天皇は、丁卯の年八月十五日(西暦四二七年)に八十三歳の生涯を閉じられ、御陵は大阪府堺市にある毛受之耳原陵(もずのみみはら) 別名 大仙古墳(だいせんこふん) 所謂 仁徳天皇陵にお鎮まりになられております。この御陵は現在、宮内庁に管轄されておりますが、近くまで進み拝礼することが出来ます。大阪にお越しの際は是非とも、お参りされてはいかがでしょうか。

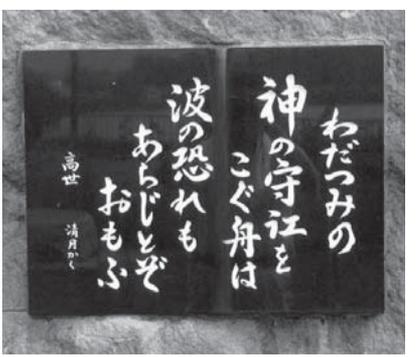
全国の「若宮八幡社」は、ご説明申し上げましたように、第十五代応神天皇(八幡大神・はちまんおおかみ)のお子様(若様)であることから、御祭神を仁徳天皇(大鷦鷯命・大雀命)としてお祀りされていることをご理解の上、信仰戴きますようお願い申し上げます。

紀田宮司家に縁ある物集家の人々 物集高世・高見・高量の三代記

物集家の祖先は、山城国物集女村で、後に大阪で豪商を営み、その一族が杵築に移り住み、物集女から物集に改姓したと伝えられる。

●物集高世(もずめたかよ)

文化十四年(西暦一八一七)、明治十六年(西暦一八八三年)漢学を元田竹溪に、国学を定村直孝に学び、平田篤胤の復古思想に刺激を受けて勉学に励む。



物集高世の短歌

杵築藩国学教授を経て、若宮八幡社の宮司職を務めていた時期もあった。清貧を柱とした生涯を送り、享年六七歳で帰幽。

〈海神の神の守江を漕ぐ船は 波の恐れもあらじとぞと思う〉

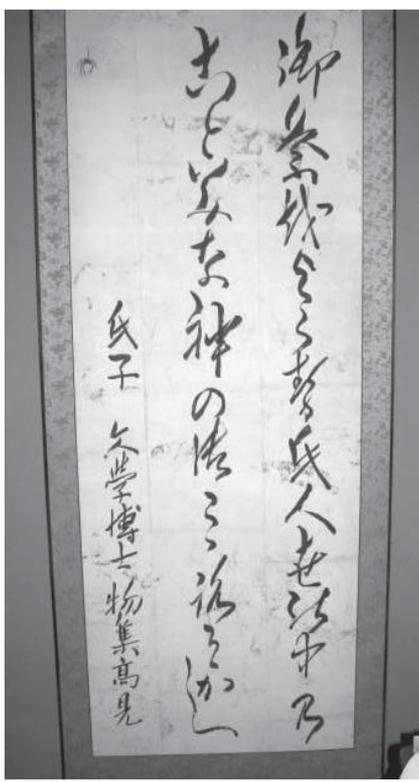
寛和元年(西暦九八五年)初代宮司紀兼貞翁が石清水八幡宮の神様を奉戴し、当地に至った時の情景を和歌にしたものです。(写真参照)

●物集高見(もずめたかみ)

弘化四年(西暦一八四七年)、昭和三年(西暦一九二八年)物集高世の長男として杵築市に生まれる。少年時代は、杵築で官学と国学を修める。慶応元年、長崎に出て蘭学を修める。明治二年に上京。明治四年からは洋学も修める。明治十二年・三十三年

●物集高量(もずめたかかず)

明治十二年(西暦一八七九年)、昭和六十年(西暦一九八五年)物集高見の長男として東京都神田に生まれる。大阪朝日新聞社を経て、晩年には百歳の折りに「徹子の部屋」にも出演。百六歳で長逝の時には当時の鈴木俊一東京都知事が弔辞を読んだ。



社務所にある物集高見の掛軸

平成二十九年正月を迎えて年末年始の神事齋行のお知らせ

例大祭・年越大祓・除夜祭・歳旦祭・三が日は新年特別祈願やお守り授与

若宮八幡社・年末年始の神事をご紹介致します。氏子崇敬者の皆様方のご参拝をお待ちしております。

関係各位のご協力により、昨年より若宮八幡社の例大祭は十二月上旬の土曜と日曜の2日間に齋行する旨変更されておりますので、何卒ご了承の程お願い申し上げます。

●十二月二日(金) 前夜祭 午後五時

例大祭の準備がいたしましたことを神様に奉告して、無事に神事が取り進められるよう希います。

●十二月三日(土) 例大祭(第1日)

午前九時/例大祭(年に一度の最重儀)

午前十時/お下り神事(神輿が頓宮まで御遷座)

午前十一時/長寿・交通安全祈願齋行

午後一時/みさき神楽奉納(1件一、五〇〇円)

どなたでも神楽奉納が可能です

若宮杯争奪 ゲートボール大会

●十二月四日(日) 例大祭(第2日)

斗初穂奉納祭

満願者は参道に斗初穂石碑を建立

午後三時/お上り神事(神輿が本殿に御還幸)

杵築市協賛 グラウンドゴルフ大会

●十二月三十一日(土) 夕刻年越大祓・除夜祭

平成二十八年一年間に知らないうちに犯してしまった罪や穢れを「人形・ひとがた」や「車形・くるまがた」に託してお祓い致し、清々しい平成二十九年をお迎え戴きます。

家族の一員であるペットの罪や穢れも一緒に託してはいかがでしょうか。

※「人形・ひとがた」や「車形・くるまがた」は若宮八幡社の社頭に準備しております。

ひと家族さま 千円お納め下さい。

大晦日に神事を厳修し、お印として限定「年越大祓大札」と「特別肌守」をお頒ち致します。

●一月一日(日) 午前六時 歳旦祭

平成二十九年最初に齋行される神事です。

御皇室の彌榮・日本国民の安寧を若宮八幡社の神様にお願ひ申し上げます。

この歳旦祭に倣い、毎朝神様に朝ご飯を差し上げる日供祭(につくさい)も午前六時に厳修します。

●三が日(元日から三日まで) 新年特別祈願祭

三が日は杵築市内をはじめとして、近隣の崇敬者また久し振りに故郷に帰省した善男善女が参拝に來られます。

神社総代方により甘酒接待をはじめ、各種お札お守り又破魔矢熊手などの縁起物も多数取り揃えて皆様方のお越しを心よりお待ちしております。

また新年特別祈願祭も承ります。(1件五千円) 厄年被い・家内安全・健康祈願・車輛交通安全初宮詣で・試験合格・延命長寿・五穀豊穰など各種祈願を厳修致します。

若宮八幡社正月授与品の紹介

新たに金鷹山朱印帳・干支西歳みくじ・金鷹みくじ・運氣上昇みくじを頒布

正月三が日を中心に、若宮八幡社では新年を寿ぐ各種お札・お守りまた縁起物などを善男善女にお頒ちするべく準備を取り進めております。神社総代さんが正月の準備である注連縄の調製・甘酒の準備・境内各所の清掃ほかを行いつつ、授与品の頒布についても着々と行っております。

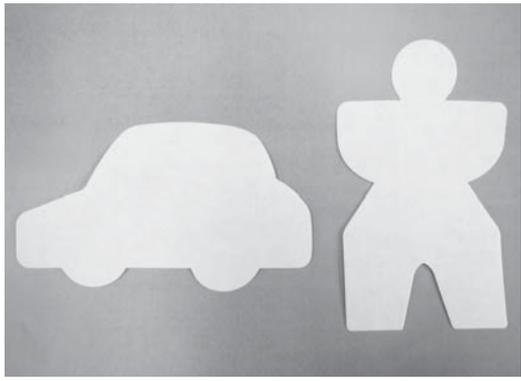
心を込めて準備奉仕を行って、大晦日に授与品の「入魂の儀・にゅうこんのぎ」を厳修し、正月からお頒ち致します。

毎年の伊勢神宮の大札・各種のお守りは勿論ですが、平成二十九年正月は、更に【金鷹山 朱印帳】【干支西歳みくじ】【金鷹みくじ】【運氣上昇みくじ】なども取り揃えました。

特に近年全国の神社やお寺では、ご朱印を受けられる方が多くなり、若宮八幡社でも『ご朱印帳はありますか?』という問い合わせを受けておりました。

皆様方のその声に少しでも応えたいとの考えにより、【金鷹山 朱印帳】をこの度調製頒布を行った次第でございます。この機会に是非ともお受けになられますようご紹介致します。

一年間お祀りしたお札や、身に付けていたお守りなどは、暮れや正月に参詣の折、若宮八幡社にお納め下さい。忌み火にてお焚き上げ致します。



年越大祓 人形と車形



大祓札



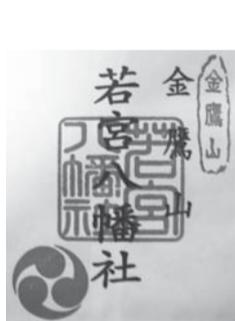
大祓守



干支西歳みくじ



朱印帳



運氣上昇みくじ



金鷹みくじ

平成二十八年祭事暦・事業報告

一月 一日	歳旦祭
三月 六日	三が日 社頭授与所開設
三月 十八日	鴨川八坂神社春祭
三月 二十日	大内天満社春祭
三月 二十日	春季祖霊祭
四月 三日	船部若宮八幡社祭
四月 六日	若宮八幡社春季大祭
四月 十三日	春日大祭・御田植祭
四月 十四日	速見支部会
五月 二日	評議員会
五月 二日	神明社祭
五月 三十日	八幡宮連合総会
六月 二日	速見支部研修旅行
六月 二日	若宮八幡社根付籠祭
六月 二日	大内天満社根付籠祭
六月 二日	鴨川区根付籠祈願祭
七月 三日	大内天満社夏祭
七月 十四日	紀田兼昭大人命中元祭
八月 十一日	仲秋祭・栗の市
九月 二日	秋季祖霊祭
九月 二日	若宮八幡社御願成就
九月 二日	国民精神昂揚研修会
九月 二日	(別府・三十日まで)
十月 二日	貴布禰社祭
十月 二日	若宮八幡社秋季大祭
十月 二日	開運祖霊講研修旅行
十一月 二日	若宮八幡社新嘗祭
十二月 一日	若宮八幡社例大祭
十二月 二日	船部若宮八幡社祭
十二月 二日	大内天満社例大祭
十二月 二日	大内天満社冬祭
十二月 三日	若宮八幡社例大祭
十二月 三日	(十二月四日まで)
十二月 十一日	浜田社祭
十二月 三十一日	除夜祭・年越大祓式

編集後記

紀田宮司のつぶやき

AI、所謂人工知能に関する記事をよく見かけるようになった。将棋や囲碁も、はたまた小説の世界も人工知能に席捲される日が近いのか危惧される処である。僧侶もネットで手配され、葬儀が気軽に受けられると評判である。我々神職の今後はどうなっていくのか。斯界の為に頑張っていくしかない。中高年男性に自動車会社のCMで矢沢永吉氏も応援しているのではないかと「やっちゃえ オッサン」と(宣)